

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

こども発達支援所「はる」
0歳児から18歳までの切れ目ない支援
(2～3面)

- 県社協令和元年度事業実績報告・概要
- 「地域紡ぐ」 三条市のNPO法人KaFuKaの活動紹介

7月号
2020
第815号



絵 しゅんすけ「チューリップ畑とさる吉くん」(えかき・新潟市西区)



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<http://www.fukushiniigata.or.jp/>

バックナンバー
こちらから

0～18歳の障がいのある子どもらに 専門家チームが切れ目ない支援

～村上市「こども発達支援所 はる」～

2018年4月に村上市に開設された「こども発達支援所 はる」(齋藤武・代表理事)は、障がいがある子どもらを乳幼児期から18歳まで、総合的、継続的に支援する「身近で頻繁に通える施設」です。理学療法士や言語聴覚士ら専門家チームが一丸となって、一人一人の発達状況に合わせた支援に当たり、看護師の常駐で医療ケアが必要な子どもにも対応します。今後は、成人の支援を行う入居型施設の設置も視野に入れています。

重度の子には居宅訪問

「はる」の開設は、代表理事の齋藤さんの息子さんが障害を抱えていたことに始まります。「村上では受けられる専門的サービスがなかった。新潟に1カ月1、2回ほど通うだけでは効果が小さい。近くで頻繁に支援が受けられることが大切。自力でやるしかない

と考えた」と振り返ります。「乳幼児期からの支援体制を作り、質を高め、成人になった子どもたちが活躍できる環境を築きたい」との願いが込められています。2017年に運営主体の一般社団法人Naturalを立ち上げました。

■専門医と連携

「はる」の大きな特長はチームで、医療、教育、保育の観点から、子どもの発達を後押しすることです。対象は0歳児から。理学療法士、言語聴覚士、看護師、教員、保育士、社会福祉士らが、発達障害専門小児科医と連携して当たります。今年からは作業療法士も加入しました。日常生活の自立をはじめ、社会性を身に

付けるなどの個別プログラムを作成、個別、小集団、集団訓練などで関わり、学習支援や就労支援も行います。市内や概ね10キロ圏内の送迎も可能で、車椅子利用の子どもや吃音などの言語訓練だけの利用も受け入れられています。保護者のケアにも努めています。



■全て受け入れ

人工呼吸器を付け医療リスク・感染リスクのある子どもには、それぞれの家庭に付けてリハビリテーションを行う「居宅訪問型児童発達支援」にも力を入れ、関川村や新発田市へも出掛けています。県内ではここだけの支援と恐れられません。村上市内だけではなく近隣地域の保育所への「訪問支援」にも取り組んでいます。保育園や学校に通える環境づくりも大きな役割です。

開設以来多くの利用があり、現在の利用登録は100人を超えています。通所が7割ほどだそうです。「自閉スペクトラム症やADHD、ダウン症など支援が必要な子どもたちは全て受け入れている」と言います。今年4月から、「放課後等デイサービス」を中心とした「はるstep」を市内に開設しています。

■外部研修積む

求められる、より専門的

「こども発達支援所 はる」 利用案内

【利用までの流れ】

- ①「はる」まで見学、相談ください
- ②受給者証の申請
- ③相談支援員との相談
- ④「はる」の利用手続き
- ⑤利用開始

【利用日】

月～金曜日(土・日・祝日休み)

【児童発達支援(0～6歳)】

9:00～12:30

重症心身障害児 9:00～17:00
前後1時間程度の延長あり

【放課後等デイサービス(7～18歳)】

(平日) 放課後～17:00
(学校休業日) 9:00～17:00
重症心身障害児 9:00～17:00
前後1時間程度の延長あり

【保育所等訪問支援(0～18歳)】

9:00～17:00

【居宅型訪問児童発達支援(0～18歳)】

9:00～17:00

【日中一時支援(7～18歳)】

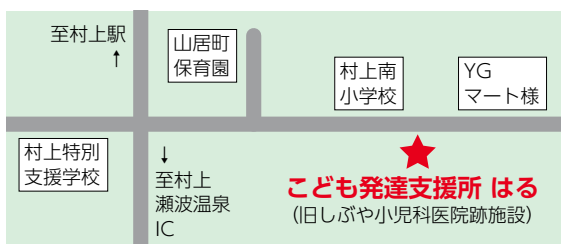
朝の預かりも致します
8:00～始業

【相談支援】

13:00～17:00

※利用料金を含め詳しくは下記にお問い合わせください。

- 住所 村上市羽黒町11番23号
- 電話 0254-62-7200
- FAX 0254-62-7370
- Eメール haru@shien-natural.net
- ホームページ <http://shien-natural.net>



な支援に対応するため、職員専門性を高め、専門家を育てる試みにも力点を置いています。「年間20～30の外部研修に出している。学んだ知識や情報を共有しながら高みを目指している」。25人ほどの職員は日々、支援の質向上への努力を続けています。

乳幼児期など早期からの支援の効果が顕著に出ています。放課後等デイサービスに初めて来た子どもに比べ、小さいころから支援を



受けている子どもは、騒ぐこともなく落ち着いて勉強



しているそうです。「早期の支援が大切と言われてきたが、やはりそうだった」「はる」の取り組みに自信を深めています。

地域との触れ合い、啓発活動も大切に行っています。

「差別や偏見をなくすため、祭りや近くのお店などいろんな所に連れて行っている。障がいのある子どもが当たり前にいるということを知ってほしい」と思っています。

■選択肢広げる

立ち上げメンバーで業務執行理事の櫻井晶さんは「児童発達支援のセンターとして、中核的役割を果たしたい」と強調します。齋藤さんは「やりたいと思うことがやれるよう、将来の選択肢を広げる支援を提供したい。モチベーションが上がるように限界があってもサポートする」。子どもたちの活躍を期待して後押しを続けます。

新潟県社会福祉協議会 令和元年度事業実施報告（概要）

1 新潟県社会福祉協議会活動指針の推進

県社協の基本理念や基本方針実現のため、平成30～令和2年度を計画期間とする活動指針に定める次の3事業を重点的かつ計画的に実施した。

(1) 地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進

- ① 地域福祉に関する問題や課題解決に向けた具体的取り組みの研究・協議
「地域共生社会実現に向けた地域福祉活動の展開に関する検討委員会」を設置し、市町村社会福祉協議会における地域福祉課題の抽出や解決方法などの取り組みに関するフィールド調査を行うとともに、令和2年度策定予定の「地域アセスメントを取り入れた地域福祉活動推進ガイドライン」（仮称）の内容充実を図るため、各市町村における地域福祉活動の実状を関係者間で共有することを目的に地域福祉推進セミナーを開催した。
- ② 新たな社会課題に焦点をあてた「テーマ型調査」の実施と課題解決に向けた具体的取り組みの研究・協議
「新たな社会課題の解決に向けた具体的取り組みの研究・協議に関するワーキングチーム」を設置・運営し、「津南町民の日常生活のお困りごとに関する調査結果報告書」を取りまとめ、公表するとともに、先進地視察等を実施した。
- ③ 地域共生社会の実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり
ア 住民の互助による移動・外出支援勉強会 in 南魚沼
11月9日 南魚沼市 参加者52人
イ 地域福祉コーディネーター研修会 参加者21人
12月17～18日 新潟市

(2) 地域における権利擁護事業の推進

- ① 日常生活自立支援事業
市町村社協実施方式への移行を進めるため、未移行社協への個別訪問、移行推進担当学会を開催し、令和2年度は1町が移行することになり、県社協が対象とする新潟市を除く県内29市町村において実施することとなった。
また、事業実施社協及び専門員、生活支援員への支援のため、巡回訪問のほか、専門員会議、新任専門員研修会、生活支援員研修会などを開催した。
今後、当事業が県内くまなく利用しやすいものとして、事業移行先の市町村域における事業の早期定着、並びに積極的な活用促進につなげるため、当事業の事業従事者の知識・スキルなど資質向上を強化していくため、「新潟県日常生活自立支援事業人材育成プログラム企画会議」を設置、開催した。
- ② 成年後見制度普及促進事業
高齢化を背景に対象者の急増が想定される成年後見制度の普及促進のための各種事業を実施した。成年後見制度推進連絡会議は成年後見制度訪問検討会に形式を変更した上で実施した。
ア 成年後見制度担当者研修会 8月6日 新潟市 参加者76人
イ 市町村長申立推進研修会
・基礎編 新潟市 7月24日 参加者86人
・応用編 新潟市 10月24日 参加者38人
ウ 成年後見セミナー
・十日町市 7月26日 参加者22人
・聖籠町 11月15日 参加者29人
・燕市 2月5日 参加者48人
エ 成年後見制度利用促進に係る意見交換会（3回）
オ 成年後見制度訪問検討会 10月から11月にかけて8会場で開催
カ 法人後見専門員スキルアップ研修会 9月26日 新潟市 参加者36人
キ 法人後見実施団体等による意見交換会 9月26日 新潟市 参加者22人

(3) 福祉職員のキャリアパスの構築

- ① 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程
全国共通の研修プログラムである「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」に完全移行した。
ア 初任者コース 7月から11月にかけて4回開催（新潟市、三条市）受講者235人
イ 中堅職員コース 7月から12月にかけて6回開催（新潟市、三条市）受講者263人
ウ チームリーダーコース 9月から11月にかけて3回開催（新潟市、三条市）受講者159人
エ 管理職員コース 8月に1回実施（新潟市）受講者53人
- ② 社会福祉施設・事業所におけるキャリアパス構築支援研修等
ア 福祉事業所におけるキャリアパス構築支援研修 新潟市 5月20日 受講者26人
イ 社会福祉職員スタートアップ研修 新潟市 8月1日～2日 受講者80人
ウ エルダー研修 新潟市 6月5日 受講者109人
- ③ 研修受講後アンケート調査
受講者・上司等を対象に受講後の行動面・意識面の変化等の調査

2 基本方針別の事業実施概要

(1) みんなで育む福祉のまちづくり

- ① 県民の福祉への理解促進と福祉の心の醸成

- ア 第69回新潟県民福祉大会の開催 10月29日～30日 南魚沼市 参加者約1,000人
- イ 福祉・介護・健康フェア2019の開催
 - ・新潟市 11月17日 来場者17,795人
 - ・長岡市 12月1日 来場者 4,752人
 - ・上越市 10月26日 来場者 1,814人



第69回新潟県民福祉大会

②地域福祉活動の振興

- ア 市町村社協会長視察研修 9月5～6日 阿賀町 参加者43人
- イ 市町村社協職員課題別研修会
 - ・社協新任及び社協職員研修会 5月9日～10日 長岡市 参加者18人
 - ・市町村社会福祉協議会地域福祉担当者研修会 9月20日 新潟市 参加者23人
 - ・若手社協職員の集い 11月29日 上越市 参加者22人
- ウ 市町村社協BCP策定ガイドライン策定
 - ・ガイドライン編纂委員会を2回開催。令和2年2月に「新潟県内市町村社会福祉協議会BCP策定ガイドライン」完成
 - ・市町村社協BCPガイドライン策定研修会 2月4日 新潟市 参加者36人

③ボランティア活動の振興

- ア 福祉教育推進セミナー 10月11日 新潟市 参加者17人
- イ 大学生・高校生ヤングボランティア応援プロジェクト
県内大学のボランティア活動取材し、「福祉にいがた」に掲載
- ウ 県民たすけあい基金運用益助成事業 60団体16,156,000円



市町村社協会長視察研修

④関係機関・団体との連携・支援の推進

- ア 福祉関係団体との連携・協働を基盤とした政策提言、予算要望活動の実施
10福祉団体共同による県知事及び県福祉保健部長に対する要望活動 12月24日
- イ 災害福祉広域支援ネットワーク事業の推進
 - ・災害福祉支援チーム員基礎研修 9月9～10日 新潟市 受講者33人

(2)一人ひとりの自立生活づくり

①高齢者の社会参加の促進

- ア ねんりんピック
 - ・第24回にいがたねんりんピックの開催 13種目 参加者1,028人
 - ・全国健康福祉祭(ねんりんピック)派遣 11月9～12日 和歌山県102人派遣
- イ シニアカレッジ新潟
 - ・基礎応用課程講座
 - 1年次 4クラス 全13日間 167人修了
 - 2年次 4クラス 全14日間 124人修了
 - ・実践講座
 - 4コース 各2～4日間 100人修了



全国健康福祉祭(ねんりんピック)

②高齢者の生活支援の充実

- ア 高齢者総合相談センターの運営
相談者数 1,668人 相談延件数 2,267件
- イ 認知症コールセンターの運営
相談者数 307人 相談延件数 436件

③障害者の社会参加の促進

- ア 福祉の店パレット新潟店の運営
 - ・農福マルシェ開催(福祉・介護・健康フェア2019同時開催)
 - ・障害者施設商品のコンプライアンス強化
HACCP導入のためのマニュアルハンドブック配布
食品表示法改正による適正な表示に向けてのセミナー開催
- イ 新潟ユニゾンプラザとの共催事業
ほっこり冬の縁日を2月16日(日)開催し、屋外イベント広場や図書情報ルームガラス面を障害者アーティスト、保育園児の作品を展示し授産製品の販売やチャリティバザーを行った。
 - ・屋外イベント広場等絵画制作者 210人
 - ・出店施設(チャリティバザー含む)10施設
売上 224,673円
 - ・来場者 600人



障がい者アート

④生活の安定への支援

- ア 生活福祉資金等貸付事業
 - 貸付件数：103件／貸付額：22,727,923円
(うち、特例貸付：9件／貸付額：1,600,000円)
- イ ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業
貸付件数：10件／貸付額：3,340,000円
- ウ 児童養護施設退所者等に対する自立支援資金事業
貸付件数：5件／貸付額：3,330,000円

(3)利用者主体の福祉サービスづくり

①福祉サービス利用者の苦情解決支援の充実

- ア 福祉サービス運営適正化委員会の開催
 - ・委員会 2回
 - ・利用援助事業調査小委員会 4回

- ・苦情解決小委員会 6回(苦情受付実績62件)
- イ 福祉サービスに関する苦情解決研修会の開催
6月、10月に2回開催 参加者：420人

(4)福祉を支えるひとつづくり

①福祉従事者の確保・就労の促進と働きやすい職場づくりへの支援

- ア 福祉人材センター事業
 - ・福祉人材無料紹介所での求人求職相談、斡旋
相談件数10,137件、採用175人
 - ・福祉のしごと就職フェア
5～2月に5市で8回開催 来場者300人
 - ・人材確保のための法人向けセミナーの開催
12月11日 新潟市 受講者76人
- イ 介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
 - ・介護福祉士・社会福祉士修学資金
貸付件数：124件／貸付額：48,620,000円
 - ・介護福祉士実務研修受講資金
貸付件数：105件／貸付額：16,910,000円
 - ・離職介護人材再就職準備金
貸付件数： 0件／貸付額： 0円

②介護の理解促進と知識・技術の普及・促進

- ア 県民介護知識・技術習得講座
 - ・介護の基礎コース
新潟市、長岡市で4回開催 参加者99人
 - ・ステップアップコース
新潟市、長岡市で4回開催 参加者88人
 - ・介護体験・入門コース
新潟市、上越市で6回開催 参加者103人



職員研修・災害支援者研修

(5)法人運営機能の強化

- ①内部管理体制の整備
 - ア 内部監査の実施 実施時期：令和元年11月
 - イ 内部通報窓口の設置 設置時期：令和元年10月
- ②職員の育成・組織力向上
組織力向上研修、社協職員研修、実践研修などを実施
- ③自主財源確保に向けた取組
事務局職員による経営強化プロジェクトチームを設置し、自主財源増強、経費効率化を検討
- ④新潟ユニゾンプラザの管理運営
- ⑤県社協事業継続計画(BCP)の策定
作成時期：令和2年3月

緊急小口資金等特例貸付を実施しています ～9月末まで受付期間が延長されました～

新潟県社会福祉協議会では新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯へ、市区町村社会福祉協議会等を窓口にて「緊急小口資金等特例貸付」を実施しています。

新潟県内の申請状況は令和2年6月12日現在で、1,786件、金額で、265,662千円(内訳：緊急小口資金1,768件、257,850千円、総合支援資金18件、7,812千円)となっております。

今後も新型コロナウイルス感染症は県民の皆様の生活に大きな影響を与えることが予想されることから、生活上のお困りごとを含め、貸付を希望される方は、お住まいの市区町村社会福祉協議会等へご相談ください。

特例貸付	【緊急小口資金】 (一時的な資金が必要な方)	【総合支援資金(生活支援費)】 (生活の立て直しが必要な方)
貸付対象者	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯
貸付上限	10万円以内 (学校等の休業等、個人事業主等の特例20万円以内)	(2人以上)月20万円以内 (単身)月15万円以内 貸付期間：原則3ヶ月以内
据置期間	1年以内	1年以内
償還期限	2年以内	10年以内
貸付利子	無利子	無利子

新潟県福祉サービス運営適正化委員会

(運営適正化委員会が創設されて今年で20年、人間では二十歳になります)



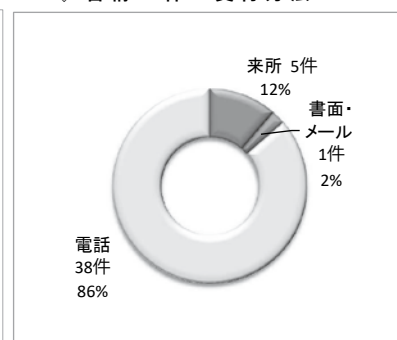
- (1) 福祉サービスは利用する人が必要なサービスを自分で選び、事業者と契約を結んで利用する仕組みになりました。
- (2) 利用すると、説明と違っていたり、思いも寄らぬ取り扱いを受けたりして不満や苦痛を感じることがあります。
- (3) まず福祉サービスの利用者と事業者との当事者が話し合って解決することが必要です。
- (4) 話し合っても解決できなかったり、事業者に直接苦情を言いにくい場合などは「新潟県福祉サービス運営適正化委員会」にご相談ください。
- (5) 「新潟県福祉サービス運営適正化委員会」では、調査・助言・あっせんなどを行い、福祉サービスの苦情が適切に解決できるよう支援いたします。

令和元年度の苦情実績

◇ 苦情内容別内訳



◇ 苦情44件の受付方法



- ・ 障害者分野の苦情が増加している
- ・ 職員の接遇に関する苦情が多い
- ・ 社会福祉事業の範囲以外の苦情が増加している

★苦情解決は非常に価値の高い取り組みであることを職員全員が認識し、積極的に取り組む必要がある

「事業者に求められること・その効果」

- ① 苦情解決に取り組み、サービス向上を目指す
- ② サービスが向上すると利用者や家族からの信頼が高まる
- ③ 信頼が高まると社会の評価が高くなる
- ④ 社会から評価されることで職員に誇りが生まれる
- ⑤ 誇りが生まれると職員はさらに苦情解決に取り組み、サービスを向上させようとする

令和2年度の事業者向け研修

◇ 「苦情相談対応研修会」

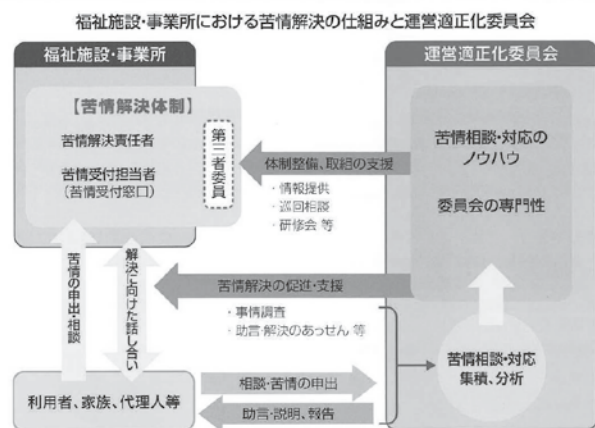
- ・ 利用者との言葉遣い、傾聴方法などの実践力を強化
 - ・ コミュニケーションスキルのアップ
- ※6月実施予定が、秋以降に延期されました

◇ 「苦情解決責任者研修会」

- ・ クレームに関する知識の習得
 - ・ 職員に対する指導、育成力の向上 (予定)
- ※10月下旬実施予定

※ 案内は、各事業所等に対してこれから行います。

運営適正化委員会の福祉サービスの質の向上の支援



運営適正化委員会では、福祉施設・事業所における適切な苦情解決と苦情解決を活かした福祉サービスの質の向上のための支援を行っています。

令和2年度

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通)	×	○	
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは
コチラ



(ふくしの保険)
ホームページ)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行所用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受数事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK19-12919 2020.2.10 作成)



赤い羽根 **情 報**

**朝日酒造株式会社様から
寄付をいただきました**

新潟日報メディアアシップで5月15日に赤い羽根共同募金贈呈式を開催しました。

朝日酒造株式会社様から創立百周年（令和2年5月16日）を記念し、社会貢献活動の一環として新潟県共同募金会に100万円を寄付していただきました。

贈呈式では、朝日酒造取締役社長の細田康様から「地域の厚い支援のおかげで、大きな節目を迎えられた。少しでも役立ててもらいたい」とのお言葉がありました。当会の小田会長は、「苦勞の結晶を頂戴したことに感謝します」と挨拶しました。朝日酒造株式会社様に改めて感謝申し上げます。



贈呈式の様子

平成30年度から「いがた・新テーマ型募金」に参加している団体の活動を紹介します

心の悩みを聞かせて欲しい

新潟いのちの電話後援会下越支部

『いのちの電話』は、精神的危機に直面し、助けを求めている人と電話で対話することで、その危機を克服してほしいとの願いから生まれたボランティア組織です。当下越支部は、その活動を支援する後援会の支部として10年前に発足しました。

支部活動の中で、特に中学生向けの活動を模索して取り組みましたが、「いのちの電話カード」を下越地区の全中学生に毎年配付したいと考え、その製作費としてご寄付を募りました。このカードは中学生が常に生徒手帳に挟んで携帯できるようなデザインとし、相談電話を記載したものになっています。たくさんのご寄付をありがとうございました。



贈呈式の様子（阿賀野市）

新潟ユニゾンプラザ **情 報**

◆主な貸室の紹介 【特別会議室】



【広さ】 186㎡
(カーペット敷)

スクール形式や口の字形など目的に合わせたレイアウトで、各種セミナーや面接・筆記試験会場、社内外の会議など幅広くご利用いただけます。



貸ホール・貸会議室は新潟ユニゾンプラザへ

多目的ホール、大会議室、大・中・小研修室など用途や規模にあわせてご利用いただけます。無料の専用駐車場（220台）を完備しております。

◆貸室の利用申込方法

ユニゾンプラザホームページよりお申し込みください。貸室の予約状況も公開しています。

URL : <http://www.unisonplaza.jp/>

【中研修室】



【広さ】 236㎡

会議・セミナー・教室など幅広い用途にお使いいただけます。

跳ね上げ式テーブルにより、配置換えの移動も容易にできます。

—多目的ホール、各種会議室、福祉の店パレット、図書館は新型コロナウイルス対策を励行しています—



「65歳以上の劇団」は、同市の多目的施設・まちなか広場「ステージえんがわ」のオープンを機に2016年4月に誕生しました。地域の高齢者が集える取り組

みの一環です。どこからでも、けいこの様子を見ることができ「えんがわ」を拠点に毎週2回、演技力を磨き、発声練習など即興を取り入れた練習を続けてきました。理事長で元プロの劇団員の岡田さんが主宰、豊富な舞台経験を生かして、演出や演

劇団始まって以来の挑戦となった作品は、2018年12月に同市中央公民館で公演した、130分の朗読劇「銀河鉄道の夜」です。それまでは、「サンタ養成学校」や「永遠の少女より」などのオリジナル作品で20〜30分の公演でした。集中力と本場の演技力が試される舞台となりましたが、出演者は人生経験に基づいた味のある演技でやり切りました。同世代らに演劇を通

表現する楽しさ、みんなに届けたい

引きこもりがちな高齢者らへ、演劇を通して元気にしたいと、三糸市で立ち上げられた演劇教室「65歳以上の劇団」。作品づくりや公演本番を重ねて5年目、「何にでも挑戦しよう」とメンバーは意欲的です。昨年9月には、活動を支援するNPO法人「アトリエK

康寿命の延伸や地元の新文化の創出に貢献し、地域のにぎわいや活力を生み出している」と評価されました。ちなみに、旗揚げ公演は、桃太郎や浦島太郎らが年を取ってから集まるというものでした。偶然にも、携帯電話会社の同様のCM開始と重なったそうです。

劇団の活動費は主にメンバーからの月謝収入です。製作費などを賄うため、多くの支援を募っています。



三糸市内の今年から拠点としている『蔵ギャラリー』での練習

◆メモ◆
NPO法人理事長の岡田美香さんは、全国の子どもたちに演劇を届ける劇団トマト座の元女優。400以上のステージに立ちました。結婚を機に三糸市へ。劇団のほかに、同市わくわく未来塾で、子どもにも表現する楽しさを教えています。自らを表現する力を得た子どもたちは、自信を持って学校生活を送っているそうです。

劇団の活動費は主にメンバーからの月謝収入です。製作費などを賄うため、多くの支援を募っています。

【電話】070-6674-17221
【ホームページ】
<https://www.facebook.com/>
演劇教室65歳以上の劇団

して勇氣と刺激を届けたのです。視覚からも飽きさせない工夫を凝らし、観客を宮沢賢治の世界にいざなう演出も功を奏して、120人を超える観客からは大きな拍手が送られました。

市内の公民館やお寺のほか、加茂市など近隣地域での公演も行ってきました。夏休みには、「ステージえんがわ」と共同で地元につながる怪談をテーマにした「怪談ナイト」を子どもたちに届けるなどの活動も

行っています。

メンバーは12人ほど。普段ならできない格好も舞台では堂々とでき、人前で生き生きと演じることができるとも演劇の魅力です。「記憶力も体力も、けいこをしているから維持できている」とはメンバーの声です。舞台ですてきな笑顔を見せていた80歳後半の看板女優は、なかなかけいこに参加できませんが健在です。「みんな、やろうよ」というメンバーの思いが高まって

いるそうです。

今年9月2日はNPO法人設立1周年です。それを目指して新たな作品づくりを始めます。原作は絵本「えんとつ町プペル」(にしのみあきひろ著)。著者は「えんとつ町は、夢を語れば笑われて、行動すれば叩かれる、現代社会の風刺」とコメントしています。子どもから大人までに届けられるメッセージが込められています。岡田さんは「1回限りではなく、何回も上演で

きる作品をつくりたい」と今後の作品づくりへ意欲を見せます。

今年から、同市内のNPO法人「地域たすけあい ネットワーク」が運営する「蔵ギャラリー」を練習場所にしています。ネットワークが運営する福祉施設利用者や支援する不登校の子どもたちにも演劇の楽しさを届け、「喜んでもらえたら、うれしいな」と話します。

がり、演劇を通じた交流を図りたい、劇団のさらなる高みを目指して外部講師も招きたい、など夢を広げています。

(取材協力:新潟NPO協会)

地域の社会資源を耕し、共生社会に向かって、地域を支えるNPO法人や福祉関連団体などの活動を紹介しします。

|| 随時掲載 ||



愛か毒か

親子関係をあらわす概念として、「毒親」という言葉が聞かれるようになってきました。親を「毒」と表現するこの語感、非常にインパクトが

あります。親の立場からすると、なかなかショックな響きではないでしょうか。アメリカの専門家が提唱したもので、子どもを支配したり傷つけたりする、「子どもにとって毒になる親」を指すとされています。毒親の特徴には、暴力やネグレクトなど、いわゆる「虐待」の性格が強いものが含まれますが、過干渉や依存、自立を妨げる、言葉によって抑圧するなど、親が精神的に支配し、子どもが苦しむというパターンも多いようです。親心のつもりが、「自分の思うような子どもであって

ほしい」、あるいは「自分のそばから離れないでほしい」という思いのもとに、子どもの持っている力や意欲を奪う言動をしてしまう。結果、自尊心が持てない、対人関係に困難が生じるなど、子どもの生き方が考え方にさまざまな影響が及ぶことがあります。

したのか、子どもに言ったことは本当に、その子のためなのか、それとも、親である「自分のため」なのか?一瞬でも立ち止まることのできたなら、無意識のうちに子どもを傷つけてしまうことは減っていくのだと思います。

今回の外出自粛を受けて、子どもとの時間の過ごし方に変化があった家庭は多いのではないのでしょうか。元の生活に戻ろうとしている今このときこそ、親子のかかわりをちょっと振り返ってみる、良い機会かもしれません。

(実央)

福祉の現場

—福祉の現場で働く人たちに、
仕事の魅力と懸ける思いを聞きました—



ソーシャルサポートネットワーク
代表

いとう ゆうすけ さん
伊藤 裕輔 さん

◆資格

社会福祉士、介護支援専門員、
介護福祉士

◆モットー

感謝の気持ちを忘れない

2015年から胎内市社会福祉協議会の地域包括支援センターで、主に総合相談と権利擁護の仕事に携わっています。「高齢であったり、障がいがあったり、その人が抱えている問題は一人一人違う。その人の『固有の価値』に対してどのように向き合えば良いのか、日々考えている」。2016年に疑問が湧き上がりました。「センターと一緒に働く保健師や主任介護支援専門員に比べ、社会福祉士の存在や役割は一般の人に知られていないのでは」。これが「ソーシャルサポートネットワーク」立ち上げの発端です。

社会福祉士の専門性向上へ学習会重ねる

つくりたいという思いを団体名に込めました。コアメンバーは問題意識を共有する3人。村上市など下地域で9回の学習会を重ね、参加者は延べ300人を超えます。開催の案内はSNSで発信しています。学生の参加が毎回多いことが最大の特徴。社会福祉士を目指す若い力が強みです。一昨年、阿賀町で行った1泊2日の学習会には、新潟青陵大学など県内外の4校から15人が参加。学生同士、また現役の社会福祉士らとの意見交換など、互いに充実した時間を過ごしました。「社会人になっても、休みを利用して学習会に参加してくれる。とてもうれしいことだ」。大きな収穫となりました。「こうしたネットワークが県内各地に増

えるといいな」と話します。ネットワークを通じて、多くの出会いもありました。社会福祉士の専門性を学ぶ大切さを知り、2年前から、社会福祉士をはじめ弁護士、大学の先生らとソーシャルワーク学習会と憲法カフェを定期的に開催しています。さらなる高みを目指し、昨年から大学院にも通っています。家族と職場の協力で感謝しながらの活動です。

日課は朝のジョギング。目標は1カ月に100歩。ストレス発散になるそうです。



学習会

◆ご意見・感想お寄せください

◆TEL 0950-85575 新潟市中央区上所2-2-2

◆新潟ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課

◆FAX 025-28115528

◆Eメール oasis@fukushinigaata.or.jp

ユニゾンの図書館ニュース

「されど愛しきお妻様」

「大人の発達障害」の妻と「脳が壊れた」僕の18年間

著：鈴木 大介
発行：講談社

41歳で脳梗塞で倒れたルポライターの鈴木大介さんの闘病生活を支えた「お妻様」。鈴木さんと「家事力ゼロな大人の発達障害さん」だった「お妻様」が悪戦苦闘しつつ、「超動けるお妻様」になるまでの愛と笑いと涙の実話です。

問い合わせ 新潟ユニゾンプラザ図書情報ルーム ☎025-281-5514



この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎025-281-5584
発行人／関原 貢
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和2年7月1日発行（毎月1日発行）
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷／島津印刷㈱